

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成21年2月13日

【四半期会計期間】 第41期第3四半期(自平成20年10月1日至平成20年12月31日)

【会社名】 兼松エレクトロニクス株式会社

【英訳名】 KANEMATSU ELECTRONICS LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 榎本秀貴

【本店の所在の場所】 東京都中央区京橋2丁目17番5号

【電話番号】 03(5250)6801(代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 高橋 薫

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区京橋2丁目17番5号

【電話番号】 03(5250)6801(代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 高橋 薫

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)
兼松エレクトロニクス株式会社 大阪支社
(大阪府中央区淡路町3丁目1番9号)
兼松エレクトロニクス株式会社 名古屋支店
(名古屋市中区栄2丁目9番3号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

回次		第41期 第3四半期 連結累計期間	第41期 第3四半期 連結会計期間	第40期
会計期間		自平成20年4月1日 至平成20年12月31日	自平成20年10月1日 至平成20年12月31日	自平成19年4月1日 至平成20年3月31日
売上高	(千円)	36,272,724	10,167,975	55,592,180
経常利益	(千円)	2,822,817	454,836	4,506,113
四半期(当期)純利益	(千円)	1,570,776	244,433	2,866,806
純資産額	(千円)		28,696,779	28,164,930
総資産額	(千円)		37,136,593	40,476,998
1株当たり純資産額	(円)		1,003.30	984.66
1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	54.92	8.55	100.22
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益	(円)			
自己資本比率	(%)		77.27	69.58
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	4,295,161		5,379,652
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	155,489		1,205,995
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	858,976		688,129
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)		21,800,811	18,519,950
従業員数	(名)		1,059	1,011

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結会計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

3 【関係会社の状況】

当第3四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成20年12月31日現在

従業員数(名)	1,059	[141]
---------	-------	-------

- (注) 1 従業員数は、就業人員であります。
2 臨時従業員数は、[]内に当第3四半期連結会計期間の平均人員を外数で記載しております。
3 臨時従業員には、派遣社員を含んでおります。

(2) 提出会社の状況

平成20年12月31日現在

従業員数(名)	525	[111]
---------	-----	-------

- (注) 1 従業員数は、就業人員であります。
2 臨時従業員数は、[]内に当第3四半期会計期間の平均人員を外数で記載しております。
3 臨時従業員には、派遣社員を含んでおります。

第2 【事業の状況】

1 【仕入、受注及び販売の状況】

(1) 仕入実績

当第3四半期連結会計期間における仕入実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	金額(千円)
システム事業	4,961,143
サービス・サポート事業	2,369
合計	4,963,512

(注) 1 セグメント間の取引については、相殺消去しております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注状況

当第3四半期連結会計期間における受注状況を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	受注高(千円)	受注残高(千円)
システム事業	7,301,925	4,976,149
サービス・サポート事業	2,584,038	6,224,876
合計	9,885,964	11,201,026

(注) 1 セグメント間の取引については、相殺消去しております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当第3四半期連結会計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	金額(千円)
システム事業	6,894,237
サービス・サポート事業	3,273,737
合計	10,167,975

(注) 1 セグメント間の取引については、相殺消去しております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

3 【財政状態及び経営成績の分析】

文中の将来に関する事項は、本四半期報告書提出日現在において当社グループ（当社および連結子会社）が判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第3四半期連結会計期間における国内経済は、サブプライムローン問題に端を発した世界的な金融危機の深刻化を背景として、企業業績の低迷、雇用情勢の悪化が顕著となり、景気の減速感が一層強まってまいりました。

また、国内IT市場におきましては、世界規模の景気後退の影響から、企業のIT投資は抑制傾向が強まってまいりました。

このような環境の中、当社では技術力と最先端プロダクトを駆使した独自ソリューションの展開や高度な検証技術により、汎用プロダクトを組み合わせることで発生する品質の格差を解消し、低価格化および高品質化を実現するといったサービスの差別化など、数々の施策を積極的に推進してまいりました。

また、子会社であるケー・イー・エルテクニカルサービス株式会社と日本ティー・ケー・イー株式会社を合併することにより、コスト競争力を高め、保守サービス技術の一層の向上とお客様ニーズに柔軟に対応できる体制の構築を図り、より良いサービスの提供に努めるとともにサービス事業の収益力強化を図ってまいりました。

この結果、当第3四半期連結会計期間の売上高は101億6千7百万円、営業利益は4億7百万円、経常利益は4億5千4百万円、四半期純利益は2億4千4百万円となりました。

事業の種類別セグメントの状況

（システム事業）

仮想化技術を利用したサーバー統合に対する需要は依然活発であったものの、ドキュメント関連事業、ネットワーク関連事業、サーバー関連事業、ストレージ関連事業、エンジニアリング関連事業ともに、企業のIT投資抑制の影響を受け、前年同期に比べ減収となり、システム事業の売上高は、68億9千4百万円となりました。

（サービス・サポート事業）

ストレージ関連およびネットワーク関連、サーバー関連ビジネスのサービス収入が増加したことにより、サービス・サポート事業の売上高は、32億7千3百万円となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産の部)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて7.0%減少し、327億5千6百万円となりました。これは、現金及び預金が32億8千万円増加したものの、受取手形及び売掛金が51億6千万円減少したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて16.8%減少し、43億8千万円となりました。これは、退職給付制度の変更に伴う前払年金費用の減少が3億6千9百万円、投資有価証券の減少が4億9百万円あったことなどによります。

(負債の部)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて32.4%減少し、77億2千8百万円となりました。これは、支払手形及び買掛金の減少が26億8千6百万円、賞与引当金の減少が6億4千6百万円あったことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて19.4%減少し、7億1千1百万円となりました。これは、退職給付引当金が1億7千2百万円減少したことなどによります。

(純資産の部)

純資産は、前連結会計年度末に比べて1.9%増加し、286億9千6百万円となりました。これは、四半期純利益15億7千万円の計上および配当金8億5千8百万円の支払いにより、利益剰余金が7億1千2百万円増加したことなどによります。この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の69.6%から77.3%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」）は218億円となり、第2四半期連結会計期間末に比べ7億1千7百万円の増加となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローでは、仕入債務が減少したものの、売上債権が減少したことなどにより、11億7千4百万円の資金の獲得となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローでは、有形固定資産および無形固定資産の取得による支出などにより、2千7百万円の資金の使用となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローでは、配当金の支払いなどにより、4億2千9百万円の資金の使用となりました。

(4) 事業上および財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において、当連結会社の事業上および財務上の対処すべき課題に重要な変更および新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第3四半期連結会計期間の研究開発費の総額は1億3千1百万円であります。

第3 【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第3四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第3四半期連結会計期間において、第2四半期連結会計期間末に計画中であった重要な設備の新設、除却等について、重要な変更ならびに重要な設備計画の完了はありません。

また、当第3四半期連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、除却等はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	42,206,000
計	42,206,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成20年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成21年2月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	28,633,952	28,633,952	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数は100株であります。
計	28,633,952	28,633,952		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当項目はありません。

(3) 【ライツプランの内容】

該当項目はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成20年12月31日		28,633		9,031,257		8,177,299

(5) 【大株主の状況】

当第3四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、実質株主が把握できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成20年9月30日現在で記載しております。

【発行済株式】

平成20年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 30,600		
完全議決権株式(その他)	普通株式 28,582,100	285,821	
単元未満株式	普通株式 21,252		
発行済株式総数	28,633,952		
総株主の議決権		285,821	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式が40株含まれております。

【自己株式等】

平成20年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 兼松エレクトロニクス 株式会社	東京都中央区京橋2丁目 17番5号	30,600		30,600	0.1
計		30,600		30,600	0.1

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成20年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高(円)	800	852	848	879	878	856	777	789	782
最低(円)	693	774	800	778	804	721	602	700	711

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

3 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書提出日までの役員の異動はありません。

第5 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第3四半期連結会計期間(平成20年10月1日から平成20年12月31日まで)及び当第3四半期連結累計期間(平成20年4月1日から平成20年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、あらた監査法人により四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	21,800,811	18,519,950
受取手形及び売掛金	3 6,415,960	11,576,268
商品	2,641,766	2,790,575
仕掛品	11,986	-
繰延税金資産	249,190	561,714
その他	1,639,211	1,763,737
貸倒引当金	2,425	-
流動資産合計	32,756,499	35,212,246
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	257,550	270,343
車両運搬具(純額)	2,303	3,027
土地	93,000	93,000
その他(純額)	636,101	720,191
有形固定資産合計	1 988,954	1 1,086,562
無形固定資産		
のれん	143,522	189,640
その他	240,821	309,057
無形固定資産合計	384,343	498,697
投資その他の資産		
投資有価証券	1,501,909	1,911,873
長期貸付金	1,891	3,754
繰延税金資産	226,118	29,887
その他	1,342,431	1,786,300
貸倒引当金	65,554	52,323
投資その他の資産合計	3,006,796	3,679,491
固定資産合計	4,380,094	5,264,751
資産合計	37,136,593	40,476,998

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,317,988	6,004,257
未払法人税等	446,275	470,751
賞与引当金	371,908	1,018,387
役員賞与引当金	23,101	27,630
その他	3,569,085	3,908,501
流動負債合計	7,728,358	11,429,528
固定負債		
繰延税金負債	-	23,438
退職給付引当金	588,123	760,938
役員退職慰労引当金	122,036	96,957
その他	1,295	1,205
固定負債合計	711,455	882,539
負債合計	8,439,813	12,312,067
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,031,257	9,031,257
資本剰余金	8,177,299	8,177,299
利益剰余金	11,469,044	10,756,373
自己株式	24,706	23,834
株主資本合計	28,652,895	27,941,096
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	43,728	223,869
繰延ヘッジ損益	156	35
評価・換算差額等合計	43,884	223,834
純資産合計	28,696,779	28,164,930
負債純資産合計	37,136,593	40,476,998

(2)【四半期連結損益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)
売上高	36,272,724
売上原価	25,782,362
売上総利益	10,490,362
販売費及び一般管理費	7,842,273
営業利益	2,648,089
営業外収益	
受取利息	100,237
受取配当金	31,950
受取補償金	38,095
雑収入	10,877
営業外収益合計	181,160
営業外費用	
支払利息	4,068
雑支出	2,364
営業外費用合計	6,432
経常利益	2,822,817
特別利益	
固定資産売却益	6,069
投資有価証券売却益	14,169
特別利益合計	20,238
特別損失	
固定資産除却損	8,055
固定資産売却損	244
投資有価証券売却損	16,944
投資有価証券評価損	52,296
特別損失合計	77,540
税金等調整前四半期純利益	2,765,515
法人税、住民税及び事業税	977,867
法人税等調整額	216,872
法人税等合計	1,194,739
四半期純利益	1,570,776

【第3四半期連結会計期間】

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)
売上高	10,167,975
売上原価	7,252,572
売上総利益	2,915,402
販売費及び一般管理費	2,507,902
営業利益	407,500
営業外収益	
受取利息	35,532
受取配当金	10,432
雑収入	3,205
営業外収益合計	49,171
営業外費用	
支払利息	1,400
雑支出	434
営業外費用合計	1,835
経常利益	454,836
特別利益	
固定資産売却益	6,035
投資有価証券売却益	25
特別利益合計	6,060
特別損失	
固定資産除却損	1,900
投資有価証券評価損	6,279
特別損失合計	8,180
税金等調整前四半期純利益	452,716
法人税、住民税及び事業税	49,770
法人税等調整額	258,053
法人税等合計	208,282
四半期純利益	244,433

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

当第3四半期連結累計期間
 (自平成20年4月1日
 至平成20年12月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	2,765,515
減価償却費	403,001
賞与引当金の増減額(は減少)	646,479
退職給付引当金の増減額(は減少)	172,814
前払年金費用の増減額(は増加)	369,744
受取利息及び受取配当金	132,187
支払利息	4,068
投資有価証券売却損益(は益)	2,775
投資有価証券評価損益(は益)	52,296
売上債権の増減額(は増加)	5,147,076
たな卸資産の増減額(は増加)	136,823
その他の流動資産の増減額(は増加)	135,558
仕入債務の増減額(は減少)	2,686,269
その他の流動負債の増減額(は減少)	246,211
その他	23,873
小計	5,156,772
利息及び配当金の受取額	122,938
利息の支払額	4,068
法人税等の支払額	980,480
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,295,161
投資活動によるキャッシュ・フロー	
投資有価証券の取得による支出	2
投資有価証券の売却による収入	37,631
有形及び無形固定資産の取得による支出	298,631
有形及び無形固定資産の売却による収入	2,759
投資その他の資産の増減額(は増加)	699
その他	103,452
投資活動によるキャッシュ・フロー	155,489
財務活動によるキャッシュ・フロー	
配当金の支払額	858,104
その他	872
財務活動によるキャッシュ・フロー	858,976
現金及び現金同等物に係る換算差額	165
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	3,280,860
現金及び現金同等物の期首残高	18,519,950
現金及び現金同等物の四半期末残高	21,800,811

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)
1 連結の範囲に関する事項の変更 前連結会計年度において連結子会社であった日本 ティー・ケー・イー株式会社は、平成20年4月1日に ケー・イー・エルテクニカルサービス株式会社と合 併し解散したため、連結の範囲から除外いたしまし た。
2 会計処理基準に関する事項の変更 棚卸資産の評価に関する会計基準の適用 第1四半期連結会計期間より、「棚卸資産の評 価に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平 成18年7月5日 企業会計基準第9号)を適用し、 評価基準については、原価法から原価法(収益性の 低下による簿価切下げの方法)に変更しておりま す。 なお、この変更による当第3四半期連結累計期 間の損益に与える影響は軽微であります。

【簡便な会計処理】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)
1 棚卸資産の評価方法 当第3四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関し ては、実地棚卸を省略し、第2四半期連結会計期間末の 実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する 方法によっております。 また、棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低 下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積 り、簿価切下げを行う方法によっております。
2 繰延税金資産および繰延税金負債の算定方法 繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連 結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発 生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結 会計年度において使用した将来の業績予測やタックス ・プランニングを利用する方法によっております。

【四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理】

当第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末 (平成20年3月31日)
1 有形固定資産の減価償却累計額 3,464,657千円	1 有形固定資産の減価償却累計額 3,362,913千円
2 偶発債務 金融機関からの借り入れに対する保証 従業員(住宅資金) 17,379千円	2 偶発債務 金融機関からの借り入れに対する保証 従業員(住宅資金) 18,899千円
3 四半期連結会計期間末日満期手形 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。 なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末残高に含まれております。 受取手形 16,053千円 支払手形 11,121千円	

(四半期連結損益計算書関係)

第3四半期連結累計期間

当第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	
販売費及び一般管理費の主なもの	
貸倒引当金繰入額	19,001千円
従業員給与及び手当	2,662,507千円
役員賞与引当金繰入額	23,101千円
賞与引当金繰入額	317,696千円
退職給付費用	200,573千円
役員退職慰労引当金繰入額	30,535千円

第3四半期連結会計期間

当第3四半期連結会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)	
販売費及び一般管理費の主なもの	
従業員給与及び手当	894,733千円
役員賞与引当金繰入額	7,179千円
賞与引当金繰入額	205,999千円
退職給付費用	67,116千円
役員退職慰労引当金繰入額	10,110千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	
現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係	
現金及び預金	21,800,811千円
現金及び現金同等物	21,800,811千円

(株主資本等関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成20年12月31日)および当第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当第3四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	28,633,952

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当第3四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	31,419

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成20年4月30日 取締役会	普通株式	429,054	15	平成20年3月31日	平成20年6月10日	利益剰余金
平成20年10月31日 取締役会	普通株式	429,049	15	平成20年9月30日	平成20年12月2日	利益剰余金

(2) 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

5 株主資本の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

(リース取引関係)

当第3四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年12月31日)

所有権移転外ファイナンス・リース取引について通常の賃貸借取引に係る方法に準じて処理を行っておりますが、当四半期連結会計期間末におけるリース取引残高は前連結会計年度末に比べて著しい変動が認められないため、記載しておりません。

(有価証券関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成20年12月31日)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(デリバティブ取引関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成20年12月31日)

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引については記載対象から除いているため、該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

当第3四半期連結会計期間(自平成20年10月1日至平成20年12月31日)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

当第3四半期連結会計期間(自平成20年10月1日至平成20年12月31日)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

当第3四半期連結会計期間(自平成20年10月1日至平成20年12月31日)

	システム事業 (千円)	サービス・ サポート事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する 売上高	6,894,237	3,273,737	10,167,975		10,167,975
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	86,928	44,289	131,217	(131,217)	
計	6,981,165	3,318,027	10,299,193	(131,217)	10,167,975
営業利益又は営業損失()	72,545	476,749	404,204	3,296	407,500

(注) 1 事業区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 各事業区分の主な事業の内容

事業区分	主要な事業の内容
システム事業	総合情報システムの提案、システムインテグレーション、 ネットワークインテグレーション、ソフトウェア開発等
サービス・サポート事業	運用管理サービス、アウトソーシングサービス、システムの保守サービス

当第3四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年12月31日)

	システム事業 (千円)	サービス・ サポート事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する 売上高	26,514,201	9,758,522	36,272,724		36,272,724
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	265,152	132,243	397,395	(397,395)	
計	26,779,354	9,890,765	36,670,120	(397,395)	36,272,724
営業利益	1,591,392	1,019,251	2,610,643	37,445	2,648,089

(注) 1 事業区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 各事業区分の主な事業の内容

事業区分	主要な事業の内容
システム事業	総合情報システムの提案、システムインテグレーション、 ネットワークインテグレーション、ソフトウェア開発等
サービス・サポート事業	運用管理サービス、アウトソーシングサービス、システムの保守サービス

【所在地別セグメント情報】

当第3四半期連結会計期間(自平成20年10月1日至平成20年12月31日)および当第3四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年12月31日)

本国以外の国または地域に所在する連結子会社がないため、所在地別セグメント情報は記載しておりません。

【海外売上高】

当第3四半期連結会計期間(自平成20年10月1日至平成20年12月31日)および当第3四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年12月31日)

海外売上高がないため、記載しておりません。

(1株当たり情報)

1 1株当たり純資産額

当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末 (平成20年3月31日)
1,003.30円	984.66円

2 1株当たり四半期純利益および潜在株式調整後1株当たり四半期純利益

第3四半期連結累計期間

当第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	
1株当たり四半期純利益	54.92円
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

2 1株当たり四半期純利益の算定上の基礎

項目	当第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)
四半期連結損益計算書上の四半期純利益(千円)	1,570,776
普通株式に係る四半期純利益(千円)	1,570,776
普通株主に帰属しない金額(千円)	
普通株式の期中平均株式数(千株)	28,603

第3四半期連結会計期間

当第3四半期連結会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)	
1株当たり四半期純利益	8.55円
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

2 1株当たり四半期純利益の算定上の基礎

項目	当第3四半期連結会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)
四半期連結損益計算書上の四半期純利益(千円)	244,433
普通株式に係る四半期純利益(千円)	244,433
普通株主に帰属しない金額(千円)	
普通株式の期中平均株式数(千株)	28,603

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成20年10月31日開催の取締役会において、第41期の中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額 429,049千円

1株当たりの金額 15円00銭

支払請求権の効力発生日および支払開始日 平成20年12月2日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年 2月10日

兼松エレクトロニクス株式会社
取締役会 御中

あらた監査法人

指定社員 公認会計士 目黒 高三
業務執行社員

指定社員 公認会計士 美若 晃伸
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている兼松エレクトロニクス株式会社の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成20年10月1日から平成20年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、兼松エレクトロニクス株式会社及び連結子会社の平成20年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。